

不漁、そして1950年代は好漁に転じておる(中村1951; 宇田1957; 山中ら1963)。

海洋のある何かの変化する性状又は特質がごく若いクロマグロの生残に影響しそれが時間的に変化してこのように後れた年に成魚の数量的に変化したものと思われる。

#### (1) 他 の 調 査

集団を維持したり集団にいたる魚の行動を水槽実験することも価値がある(Magnuson 1963)。1ポピュレーション内の年令階級間の生長率を変える環境の役割の研究もやらねばならない、ポピュレーションや年令階級を同定する困難はあるにしても。Serventy (1956)は試行的成果をクロマグロについて出している。Robins(1963)はその年令同定を疑問視している。(宇田 道隆)

### 16 プランクトンサンプラーの流体力学シンポジウム

ICES-SCOR-UNESCOの動物プランクトン法の作業委員会は、よりよいサンプリングの方法はサンプラーの流体力学をもつと良く理解することにあると考えて、1966年2月シドニーでの会議の前に本題のシンポジウムを開くことになった。2月10日~16日の間、実演、テスト(シドニー大学機械工学科および航空工学科で)を行ない、シンポジウムの主体をなす論文発表及び討論はCSIROの漁業及び海洋学部で行なわれる。プランクトンネットの濾過係数の実験を水槽と風洞で煙を使つてやつた。目がつまるとどのように減るか流線を写真にとつて示した。ある臨界速度をこえると濾過係数は曳速と無関係になる。この臨界速度は網目の大きいサイズの関数で、目の細かいほどその値は大きい。濾過係数は網の長さにより補償される。濾過面積減少は単位濾過面積当りに増加した流れにより補償される。網の周りの水の流れかたか濾過に重要な役をする。

(宇田 道隆)